

VCCI だより

No.160 2026.4

目 次

寄稿 測定現場から規格策定へ： EMC技術者として歩んだ道	牧本 和之	1
委員会等活動状況		3
● 運営委員会		3
● 技術専門委員会		4
● 国際専門委員会		4
● 市場抜取試験専門委員会		5
● 広報専門委員会		5
● 教育研修専門委員会		6
● 測定設備等審査委員会		7
連載 第6回 EMCとの出会いとCISPRでの国際標準化活動	雨宮EMCコンサルティング代表 雨宮 不二雄	8
EMC Europe 2025 シンポジウム報告書		13
CEATEC 2025 出展報告		19
VCCI 協会創立 40 周年記念行事開催報告		22
2025 年度 市場抜取試験実施状況		28
事務局だより		29
● 会員名簿（2025年10月～12月）		29
● VCCI 2026 年度イベント等スケジュール		31
● 適合確認届出状況		32
● 測定設備等の登録状況		33

測定現場から規格策定へ：EMC技術者として歩んだ道

牧本 和之

私は入社してすぐ、EMC 業務に携わることになり、日本、アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリア向けのアナログテレビなどの AV 機器からのエミッション測定補助を担当し、NTSC、PAL などアナログ TV の信号方式、各国の規格・規制の違いを学びました。数多くのテレビを測定する中で、同じ被測定物を測定しているのに、なぜ国によって許容値や測定方法が異なるのか疑問に思いましたが、測定業務に追われ、その理由を追究することができませんでした。

数年後、上司の指示で VCCI 教育専門委員会に参加する機会を得て、委員として参加することになりました。私にとっては社外の委員会に参加するのが初めてで、最初は何を議論しているか把握できていませんでしたが、会員向けの教育テキストを作成する過程で、アンテナ形状、QP 検波の定義、許容値などを調べる必要があり、EMC への知識豊富な委員会メンバーからのフィードバックをいただきながら EMC の基礎知識を習得することができました。その後、定期的な測定技術者研修会での講師だけでなく、地方での技術講演会の講師や台湾での VCCI 測定講座の講師など、幅広い経験を積む機会に恵まれ、EMC 技術の理解に役立っただけなく、講師としてのスキルアップにもつながりました。VCCI の方々には大変お世話になりました。

その後、規格改訂に対応した技術分析や実験案を検討する技術専門委員会に参加することになりました。両委員会で共通の課題となったのが、通信ポートの伝導エミッションの測定方法を VCCI 会員にどのように周知するかという点でした。この試験は CISPR 22 に新たな測定項目として追加され、VCCI の規定にも盛り込まれることになりましたが、当時は内容を把握している会員が少なく、設備も整っていない状況でした。規格や規定とは別に教育資料を作成する必要がありました。具体的には、LCL、通信速度、ケーブルの違いによって測定結果がどのように変化するかの検証や、許容値の根拠や ISN*の構造の調査などを行いました。その過程で、規格における許容値の決定根拠は、単なる理論計算だけでなく、様々な実験検証や各国との協議を経て確立されていること、そして特に日本から多くの寄与文書や検証結果が提出されていることを知りました。通信ポートの検討が一段落すると、今度は 1 GHz 超の放射エミッションの測定においても同様の検討を行い、教育資料を作成、講師を務めさせていただきました。その際の糧となったのは、実験検証を重ねた経験です。

VCCIの委員に就任する前に、1 GHz 超の放射エミッション測定の場の評価について業務委託を受け、弊社の都留 EMC 試験所で検証試験を実施することになりました。その目的は、1 GHz 超の周波数においても NSA の考えをもとに構築された、CISPR/A/342/CD の内容は妥当か、CISPR 16-1-4 として規格化してよいかを判断するための検証結果を提供することです。短納期で検証を完了させるため、波形取り込みプログラムを作成しましたが、検証すべき測定量が膨大で、夜通し作業する必要がありました。規格改訂に貢献したい一心で取り組み、締め切りに間に合わせることができ、実験結果としては良好でしたが、審議の結果、本提案は却下され、現在主流となっている S-VSWR による検証方法が採用されました。しかしながら、理論計算から実証検証までの過程は、個人的に非常に貴重な学びとなりました。

今では CISPR/I をはじめとする多くの委員会に参加しておりますが、規格に定められた数値には何らかの根拠があり、過去の経緯、根拠を探ることで知見が広がり、審議にも有益であることを実感しています。現在、無線機能に対応した内容にすべく、CISPR 32 および CISPR 35 の改訂作業が進んでいますが、EMC 業界だけでなく、無線業界に携わる方からもご意見を伺えばよりよい内容になるかと思っています。また、規格改訂作業には様々な検証結果を提示することで、その内容が変更されることも少なくありません。今後も、各工業団体の皆様のお力をお借りしながら、より一層充実した活動を進めていければ幸いです。



牧本 和之（まきもと かずゆき）

経歴:

2000年3月	法政大学工学部電気電子工学科 卒業
2000年4月	財団法人 日本品質保証機構 入構
2013年4月	CISPR/I 国際エキスパート登録
2017年6月	電磁環境試験所認定センター (VLAC) 審査員登録
2021年4月	CTL Expert Task Force 10 Member 登録
2023年4月	REDCA Member 登録
2025年4月～現在	一般財団法人日本品質保証機構 安全電磁センター EMC試験部 部長 兼 安全電磁センター 試験部 サイバーセキュリティ課 副参事

* ISN : Impedance Stabilization Network
インピーダンス安定化回路網

委員会等活動状況

● 運営委員会

開催日時	2025年11月14日、12月17日
審議事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 1 2027年度以降の運営委員会委員長の選任、副委員長指名（案） ● 審議事項 2 各専門委員会 2026年度事業計画（活動計画＋予算）（案） ● 審議事項 3 「自主規制措置運用規程に関するガイダンス」 VCCI 32-1-J: 2025（案） ● 審議事項 4 新入会員（9月～11月）
審議継続事項	● 審議事項 2
審議決定・報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 1 承認された ● 審議事項 3 承認された ● 審議事項 4 承認された ● 報告事項 1 各専門委員会（技術、国際、市場抜取試験、広報、教育研修、測定設備）の9月～12月活動 ● 報告事項 2 事務局業務（入会退会動向、適合確認届出件数、収支実績等） ● 報告事項 3 CEATEC 2025出展報告（案） ● 報告事項 4 2026年規程説明会・技術シンポジウムプログラム（案） ● 報告事項 5 VCCI協会創立40周年記念行事開催報告（速報版）

● 技術専門委員会

開催日時	2025年10月1日、12月1日
審議事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 1 2025年度 技術専門委員会活動計画 ● 審議事項 2 電源ケーブルの終端条件の規格化に向けた活動 ● 審議事項 3 1 GHz超放射エミッション測定におけるプリスキャン測定時のアンテナハイトスキャンの検証 ● 審議事項 4 改良トランス結合型AANに関する電圧／電流変換比の検証とRRT ● 審議事項 5 ハイブリッドアンテナを用いたNSA法の検証 ● 審議事項 6 2026年規程説明会・技術シンポジウム開催
審議継続事項	● 審議事項 1、2、3、4、5、6

● 国際専門委員会

開催日時	2025年10月8日、11月6日、12月10日
審議事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 1 VCCI協会創立40周年記念講演準備 ● 審議事項 2 海外調査検討 ● 審議事項 3 2026年度活動計画（案）、予算（案）の検討
審議継続事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 1 VCCI協会創立40周年記念講演を委員会としてサポート（プレゼン資料の翻訳） ● 審議事項 2 海外調査検討
審議決定・報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 報告事項 1 11月28日（金）当日のVCCI協会創立40周年記念講演を委員会としてサポート（同時通訳と講演者の打ち合わせ、講演立ち合い、参加者の誘導等） ● 報告事項 2 2025年度の海外調査対象国は中国に決まったが、現地に訪問するのではなく、質問状を関連機関に送って回答をいただくことになった。

● 市場抜取試験専門委員会

開催日時	2025年10月9日、11月7日、12月11日
審議事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 1 市場抜取試験報告 ● 審議事項 2 書類審査報告 ● 審議事項 3 「市場抜取試験に関する規程」のガイダンス案 ● 審議事項 4 2026年度活動計画案
審議継続事項	● 審議事項 3
審議決定・報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 1 2025度の抜取試験は、66件までの選定を行い、試験を推進中。その結果、第3四半期に不合格水準が1件発生し、会員にて調査中 ● 審議事項 2 2025年度の書類審査は、53件までの選定が行われ、40件の審査が完了 ● 審議事項 4 2026年度の活動計画案を審議し、承認

● 広報専門委員会

開催日時	2025年10月3日、11月7日、12月8日
審議事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 1 TECHNO-FRONTIERの今後のブースデザイン ● 審議事項 2 CEATEC 2025出展報告 ● 審議事項 3 今後の展示会での展示内容 ● 審議事項 4 2026年度活動計画案・予算案 ● 審議事項 5 展示会視察
審議継続事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 3 VHF-LISN実機およびポスターの展示、ユニフォームリニューアル等について継続審議 ● 審議事項 5 COMPUTEX TAIPEI以外の海外展示会への出展を検討中。まず視察を行い、条件が合えば出展を検討する。各種展示会の時期と内容を調査中。視察費として26年度予算案に計上
審議決定・報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 1 審議の結果、展示ブースは追加料金で角地を確保して出展することとした。 ● 審議事項 2 出展報告を行った（19ページ参照） ● 審議事項 4 26年度活動計画案が承認され、それを元に予算案作成。予算案は見直しされる可能性有り

● 教育研修専門委員会

開催日時	2025年10月27日、12月18日
審議事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 1 2025年度 開催準備状況確認 ● 審議事項 2 2025年度 テキスト改訂 ● 審議事項 3 2025年度 開催実績 ● 審議事項 4 2026年度 活動計画検討
審議継続事項	● 審議事項 1、2、3、4
審議決定・報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 審議事項 1 <ul style="list-style-type: none"> ・「電磁波の基本とEMI測定技術（座学：12月4日～5日、実習KEC：12月11日～12日開催）」と「電磁波の基本とEMI測定技術（座学：12月4日～5日、実習TELEC：12月18日～19日開催）」の募集は終了し、開催に向け準備を推進 ・「EMI測定技術のレベルアップ（2026年1月30日開催）」と「EMI測定装置の不確かさ（2026年2月5日～6日開催）」の募集は終了し、開催に向け準備を推進 ● 審議事項 2 <ul style="list-style-type: none"> ・「EMI測定装置の不確かさ」において、「ハイブリッドアンテナを用いたMIU」のガイダンス反映に伴うテキストの改訂を推進 ● 審議事項 3 <ul style="list-style-type: none"> ・「EMI測定の基礎技術（10月3日開催）」はハイブリッド（オンラインと集合形式併用）にて実施し、11名が受講、全員に受講証書を授与 ・「電磁波の基本とEMI測定技術（座学：12月4日～5日、実習KEC：12月11日～12日開催）」、「電磁波の基本とEMI測定技術（座学：12月4日～5日、実習TELEC：12月18日～19日開催）」は、座学をハイブリッド（オンラインと集合形式併用）、実習を集合形式で開催し、計12名が受講し修了証書を授与 ● 審議事項 4 <ul style="list-style-type: none"> ・2026年度より、受講申込時に受講料のお支払いに関する情報をご入力いただく方法に改訂する旨の「2026年度 研修会 申込方法に関するご案内」及び「2026年度の開催スケジュール」を当協会ウェブページのトピックスに掲載 ・2026年度は、次の4つの講座の開催を計画中 <ol style="list-style-type: none"> ① EMI測定の基礎技術【上期、下期開催予定】 ② 電磁波の基本とEMI測定技術【上期、下期開催予定】 ③ EMI測定技術のレベルアップ【下期開催予定】 ④ EMI測定装置の不確かさ【下期開催予定】

● 測定設備等審査委員会

開催日時	2025年10月27日
審議事項	● 測定設備等審査ワーキンググループの審査結果
審議決定・報告事項	● 登録を承認したもの（補足資料要求、コメントを付しての登録証発行を含む） 24社 1 GHz以下放射エミッション測定設備 14基 AC電源ポート伝導エミッション測定設備 17基 有線ネットワークポート伝導エミッション測定設備 14基 1 GHz超放射エミッション測定設備 8基 コメントを付し返却としたもの なし 次回審議としたもの なし
開催日時	2025年11月17日
審議事項	● 測定設備等審査ワーキンググループの審査結果
審議決定・報告事項	● 登録を承認したもの（補足資料要求、コメントを付しての登録証発行を含む） 18社 1 GHz以下放射エミッション測定設備 13基 AC電源ポート伝導エミッション測定設備 6基 有線ネットワークポート伝導エミッション測定設備 6基 1 GHz超放射エミッション測定設備 13基 コメントを付し返却としたもの なし 次回審議としたもの なし
開催日時	2025年12月22日
審議事項	● 測定設備等審査ワーキンググループの審査結果
審議決定・報告事項	● 登録を承認したもの（補足資料要求、コメントを付しての登録証発行を含む） 18社 1 GHz以下放射エミッション測定設備 12基 AC電源ポート伝導エミッション測定設備 12基 有線ネットワークポート伝導エミッション測定設備 10基 1 GHz超放射エミッション測定設備 10基 コメントを付し返却としたもの なし 次回審議としたもの なし

EMCとの出会いとCISPRでの国際標準化活動

雨宮 EMC コンサルティング代表
雨宮 不二雄

1. はじめに

前回の連載第5回では、研究実用化を進めている電子化電話機で、受話音声をスピーカで受聴している時の音響出力が近傍にあるTV受信機の音響出力に重畳されて出力されてしまうという、電話機からのエミッションによって発生したノイズ対策のあらましを、EMCとの出会い（その3）として紹介しました。今回は、通信センタからお客様宅までの通信網をデジタル化した場合に使用する電話機（本稿ではデジタル電話機と呼称します）の、研究実用化の過程で遭遇した“EMCとの出会い”（その4）をご紹介します。

2. デジタル電話機の研究開発を開始する際に実施したブレインストーミングについて

1977年4月に、武蔵野研究所の電話機研究室（通話品質担当グループを除く）が横須賀研究所へ配置転換され、その時より私は、音声、画像、映像等のメディアを同時に多重伝送できるデジタル通信網が実現した際に導入する、デジタル電話機の研究開発に着手しました。しかしながら、当時はデジタル電話機の研究実用化項目のサーベイが未完であり、当面の重点課題も漠然としていましたため、電子化電話機の回路担当者も交えたブレインストーミング（以後BSと略記します）を頻繁に行っていました。

私はBSが開催された都度、審議経過や予備的な実験結果の概要及び、新たなアイデアの提案等を専用のメモ帳に書き留めていましたが、私がデジタル電話機の研究実用化業務から離れ、武蔵野研究所へ異動してINSモデルシステム（デジタル統合通信網の実験システム）の運用開始に向けた業務に参画することになった際、このメモ帳をBSのメンバーの1人へ申し送ったのですが、このメモ帳は残念ながらその後行方不明となってしまいました。このためBSの詳細についてご紹介はできませんが、研究実用化の基本的なスタンスにつきましては以下に示しますように、これまでの標準電話機の場合と同等であり、次の2点であったと記憶しています。

- ① デジタル電話機の発着信、通話機能及び操作性はこれまでの標準電話機（プッシュホン等）と同等であり、これらの回路は全て電話局から供給される電力で動作し、電話機が動作していない着信待ち状態では電力消費が無いこと。
- ② 通信網がデジタル化された時代の標準電話機として使用することになるため、これまで電話機が設置され使用されてきている場所と同等の環境条件（温湿度、周辺の雰囲気やガス環境及び電磁環境）で、長期間に渡ってメンテナンス不要で使用できること。

私は、電子化電話機のEMCに関わる問題に深く関わってきていましたため、デジタル電話機を設置し使用していただく場所の、電磁環境に基づいて発生するEMC問題を把握し、それらの問題の解決策を検討して研究実用化に反映する役目を仰せつかりました。

そこで最初に、電子化電話機の研究実用化の際に直面しましたEMC問題と、それらの解決に向けた取り組みの一部始終をレビューした結果、以下の2点を再確認しました。

ア. 電話機の試作機が準備できた段階で事業所での実使用試験を実施する局舎に複数台設置し、通常業務での「試用」を開始した後に、初めてEMC問題に遭遇している。

イ. その後、事業所での実使用試験を実施する局舎に頻繁に出向いて、状況調査と原因究明及び解決策の検討を開始・継続している。

そして私は、デジタル電話機の構成に必要な回路は、これまでの電子化電話機より遥かに複雑であり、また、現場実験の実施場所には端末機器までのデジタル通信回線は存在しないため、現場実験の現地ではデジタル電話機間の相互通信を行うための模擬交換機も用意する必要があることを、最初のBSの場で強調しました。この提言に対するBSメンバーからの異論はありませんでしたが、EMCの調査案件に関する質問、意見や提案が継続しました。このため、その時のBSでの意見を勘案した上で、今後のデジタル電話機の現場実験の進め方の案を準備し、BSで議論することになりました。私が提案した概要を以下に示します。

【今後のデジタル電話機の現場実験の進め方に関する提案の概要】

デジタル電話機のEMCについては、これまでの電子化電話機の場合とは異なり、「未知分野への挑戦」が多々存在するものと想定し、電話機のプロトタイプが出来上がった段階から現場実験を開始するのではなく、例えばデジタル電話機の各機能ブロックをそれぞれ数cm四方程度のプリント配線基板上に実装し、それらとハンドセット、ダイヤル、ベル回路等の全てを、数十cm四方の少々厚いベーク板（あるいはアクリル板）上に実装した現場実験用のデジタル電話機を準備し、準備が完了次第、速やかに現場実験を開始することを提案しました。

この提案を行った理由として、電子化電話機に電磁波が混入する問題を調査し雑音の発生を防止する対策を検討した際、電話機の筐体内部に収納されていた回路基板に発信、着信及び通話の全ての回路がコンパクトに実装されている状態であったため、外部から混入してくる電磁波の影響を測定・観測する際はもとより、現場実験で得られた結果に基づく対策案の実施や対策後の効果を検証する際に、ICや個別部品の端子に測定機器のプロープの端子を接続して対策結果を確認することも容易に実施できるとは限らない状況であったことを説明しました。

また、このような確認実験は、当面、特異な電磁環境下へ出向いて実施せざるを得ないため、まずは現場実験の準備を進めるのが先決であるとともに、平行して現場実験を実施する場所の選定と調査項目の具体化を検討する予定であることを提言しました。本提言は、BSメンバー全員の賛同が得られましたが、下記1件のQ&Aがありました。

【質問】

劣悪な電磁環境下に出向いて現場実験を実施する提案に異存はないが、具体的な候補地の腹案があるのか、あるいは今後検討する予定であるのか。

【回答】

現場実験の候補地として、まずはNHKのAMラジオ放送の送信アンテナ近傍（埼玉県久喜市）を考えているが、電子化電話機の現場実験で発生したTV放送波によるEMC問題の解決に取り組んだ東京通信局、更には高圧送電線の直下や電気鉄道沿線等を現場実験の候補と考えており、速やかに現場実験の実施場所の案を取りまとめる予定である。

この回答に対し異論や追加質問はありませんでした。

3. 現場実験用デジタル電話機の準備と現場実験によるEMC特性の確認・評価の開始

デジタル電話機の研究実用化段階でのEMC問題への取り組みにつきましては、最初に、AMラジオ放送のアンテナ近傍で実施しました現場実験の概要をご紹介します。

(1) NHKのAMラジオ第1及び第2放送アンテナ近傍で実施した最初の現場実験の概要

① 現場実験の実施場所の選定とアクセス

最初に現場実験を実施する候補地として、埼玉県久喜市のNHKのAMラジオ第1及び第2放送の送信アンテナ（以後NHKのAMラジオ放送アンテナと略）近傍が選定されました。そこで久喜電報電話局（以後久喜報話局と略）の関係部門に、今回の現場実験の概要をご説明し協力を依頼しましたところ、快諾を得ましたため、現場実験の実施場所として、NHKのAMラジオ放送アンテナの近傍で、交通量が少なく研究所がレンタルした車両の駐車に支障が無い場所を提案していただけないかと要請しました。この要請に対し、後日、久喜報話局より現場実験を実施する場所とアクセス方法の詳しい図面等が到着しましたので、研究所の関係者で情報共有を図るとともに、現場実験計画（案）の最終化と実験場所に持参する被試験装置類、測定用機器及びEMC対策部品類のチェックを開始しました。

② NHKのAMラジオ放送アンテナ近傍での現場実験の開始

現場実験の実施場所に到着後、直ちに木製の実験机を配置し、次いで現場実験で使用する機器（測定機器類を含む）の基準アースとして使用する接地棒の打ち込みを開始しましたが、アース棒を素手で掴むと少々強い「しびれ」を感じました（強電界のAM放送波によるものと判断）ため、ゴム手袋を着用してアース棒を打ち込むと共に、アース抵抗を極力下げる必要があるものと判断し、近くの側溝（水路）を流れている水をバケツに汲み、アース棒を中心にたっぷりと散水してアース抵抗を下げる措置を行いました。

(2) NHKのAMラジオ放送アンテナの近傍で実施したEMC現場実験の概要

今回の連載では、周囲にAMラジオ放送波の強い電磁界が存在する場に出向き、現場実験用として手作りした2台のデジタル電話機間の相互通信の設立が可能か否かの確認を主な目的として実施した現場実験の概要をご紹介します。

① 現場実験用デジタル電話機間の相互通信状態を実現可能か否かの確認

NHKのAMラジオ第1放送と第2放送の送信出力はそれぞれ300 kW、500 kWであり、現場実験用デジタル電話機を設置した場所と送信アンテナとの距離は300 m程度でしたため、このような強電界強度の下で今回持参した実験セットが、研究所で行ってきた実験の場合と同様に動作するのか否か、今回の現場実験に参加した全員が固唾を呑んで成り行きを見つめていました。何度かトライしましたが、この時は残念ながらデジタル電話機間の相互通信状態を構築することができませんでした。

② 上記①の原因調査と改善対策

デジタル電話機間の相互通信状態を構築できないと、その後の現場実験を継続することができないので、急遽全員が試験台にセットされている現場実験用デジタル電話機2台を取り囲むように集まって善後策の協議が開始され、忌憚の無い意見・提案を出し合いました。そして暫く議論が続いた後、メンバーの1人が、改善対策になるのか否か分かりませんがと前置きの上で、下記のコメントと対策案を提言してくれたことを覚えています。

【コメントと対策案】

今回の現場実験の場では、2台の電話機間でデジタル信号の授受が行われているにもかかわらず、それらの信号が通信線に誘導した極めて強いAM放送電波によりマスクされ、2台とも希望信号であるデジタル信号の再生に支障を来しているのではないかと。通信線の両端に、例えばコモンモードチョークコイル（以後CMCと略）を装着し、通信線に誘導している放送波を低減できるのか否かを確認してみたいかがか。

私はこのコメントと対策案を聞き、「それに違いない。通信線へのCMCの装着を忘れていたことに気付いてくれてありがとう」とお礼を述べるとともに、早速2台のデジタル電話機の通信線端子の直近に、現場実験に持参していたCMCを装着したところ、完璧とまでは言えませんが極めて大きな効果が確認されました。このため次回の現場実験では、数種類のCMCを持参して再度確認し、定量的なデータを記録しておくことに合意しました。

4. 今回紹介したデジタル電話機の現場実験結果のレビューに基づくその後の現場実験について

今回の連載では、通信網のデジタル化時代に使用するデジタル電話機の研究開発を開始し、プリントボード上に構成したデジタル電話機を準備して、NHKのAMラジオ放送アンテナ近傍で現場実験を開始した時の状況の一端をご紹介しました。EMCに関する現場実験は、その後も電話機2台の直結モード、2台の電話機を接続する通信線にデジタル伝送終端装置（Digital Service Unit：DSUと略）を挿入した実験セットを用いた現場実験も継続しましたが、紙面の都合もあり、それらの現場実験の概要は次回以降の連載でご紹介することにさせていただきます。



雨宮 不二雄

1967年 東北大学工学部電気系入学

1971年 東北大学工学部通信工学科卒業

1973年 東北大学工学研究科電気及び通信工学専攻修士課程修了

1973年 日本電信電話公社入社、武蔵野電気通信研究所宅内機器研究部電話機研究室に配属：電子化電話機回路の研究に従事

1977年 日本電信電話公社横須賀電気通信研究所へ異動：デジタル電話機の研究に従事

1985年 日本電信電話公社武蔵野電気通信研究所へ異動：ISDN実験システムの運用・評価に従事

1988年 NTT通信網総合研究所へ異動：通信EMCの研究、CISPR標準化業務への参画を開始

1992年 NTT技術協力センターへ異動：通信機器・装置のEMC故障対策、CISPR標準化業務に従事

1996年 NTT通信網研究所へ異動：ITSの通信網の研究、CISPR標準化業務に従事

2000年 NTTアドバンステクノロジー社へ転籍：EMC試験評価・対策コンサルタント、CISPR標準化業務に従事

2019年 NTTアドバンステクノロジー社を退職、「雨宮EMCコンサルティング」を設立、VCCI技術アドバイザーに就任 現在に至る

EMC Europe 2025 シンポジウム報告書

技術専門委員会

EMC Europe 2025に参加したので、以下に報告する。

- ・開催場所 : Sorbonne University (Campus Pierre et Marie Curie), Paris, France
- ・出張期間 (学会参加期間) : 2025 年 9 月 1 日 (月) ~ 4 日 (木)
- ・学会開催期間 : 2025 年 9 月 1 日 (月) ~ 5 日 (金)
- ・参加者 : 三宅 のぞみ 技術専門委員会 委員 (日本電気株式会社)、
村松 秀則 (VCCI 協会)

1. EMC Europe 2025シンポジウム<概要>

シンポジウムは、昨年に続き対面形式で開催された。

VCCI協会から投稿した論文の発表、その他の発表の聴講、展示会見学を通じての情報収集を目的に本シンポジウムに参加した。

参加者数は41か国から772名と発表されたが、この参加者数は過去最高であり、大変盛況であった。論文は34か国から278件提出された。テクニカルプログラムはキーノート：2件、ワークショップとチュートリアルセッション：48件、テクニカルセッション：46件で構成されていた。また32の会社が展示会場に出展していた。

2. VCCI協会からの論文発表

- ・日時 : 9月4日 (木) 12:30~14:20
- ・セッション : Poster Session 2
- ・論文名 : Experimental Evaluation of the Voltage/Current Conversion Factor of Transformer-Type AANs for 8-Wire Unscreened Balanced Pairs by Round Robin Test
- ・著者名 : 三宅 のぞみ (日本電気株式会社)、
原口 直也 (富士フイルムビジネスイノベーション株式会社)、
桑原 伸夫 (九州工業大学)、雨宮 不二雄 (VCCI 協会)、村松 秀則 (VCCI 協会)
- ・発表者 : 三宅 のぞみ (日本電気株式会社)
- ・発表概要 : 有線ネットワークポートにおいて、ディファレンシャルモードである電気通信信号からコモンモードに変換された伝導エミッションを AAN で測定する際、EUT のインピーダンスが変化すると AAN の電圧/電流変換係数が CISPR 32 で規定されている 43.5 dBΩ から変化する課題を解決するために、改良トランス型 AAN を提案した。模擬 EUT を作成して 5 か所の試験所で測定を行い、試験所の環境が異なっても、EUT のインピーダンスによる影響を受けず、電圧/電流変換係数が 43.5 dBΩ となることを報告した。

- ・所感 : ポスターには 6~7 名が訪れ、ポスターの写真撮影する参加者もいた。参加者からは、改良トランス型 AAN によって試験所間で相関性の高い測定結果を得られることや、ディファレンシャルモードからコモンモードへの変換を模擬できる模擬 EUT の回路構成などに注目が集まった。特に、医療機器メーカーの参加者からは、チャレンジングな内容であり、CISPR 11 で有線ネットワークポートの測定を検討するにあたって大変参考になるとのコメントをいただき、VCCI 協会による技術的検証が評価されたと感じた。

3. Keynote概要

(1) Keynote 1

- ・題目 : Artificial Intelligence: Transforming the Engineering Landscape
- ・発表者 : Alexandre Briot
- ・所属 : Group Artificial Intelligence Manager, Applied Machine Learning Team, Valeo Senior Expert
- ・概要 : このプレゼンテーションでは、機械学習の主要な定義と概念を改めて確認することから始め、特にデータの重要性を強調していた。次に、生成型 AI の魅力的な可能性に焦点を当て、その可能性と現状の限界を探っている。最後に、これらをまとめ、実用的なユースケースを検討し、AI を EMC 活動の強化にどのように適用できるかを示していた。

(2) Keynote 2

- ・題目 : Toward sustainable power electronics technology, state of the art and perspectives
- ・発表者 : Jean-Christophe Crébier
- ・所属 : CNRS senior researcher, G2Elab, Grenoble Electrical Engineering Lab, member of Power Electronics group
- ・概要 : このプレゼンテーションでは、実際のエコデザイン/エコ最適化アプローチの限界を概説し、リバウンド効果や影響を受けにくい設計アプローチの検討の必要性を提示していた。次に、パワーエレクトロニクス、そしてより広範なエレクトロニクスを循環型経済へと導くために期待される設計手法、指標、そしてコンセプトに焦点を当て、持続可能な技術の実現に不可欠な要素として、社会経済的および規制上の考慮事項を紹介していた。

4. Special & Oral Sessions概要

(1) Measurement Techniques (Part 1)

- ・ 題目 : On the Estimation of Radiated Emissions from Common Mode Cable Currents
- ・ 発表者 : Mr. Sajjad Sadeghi
- ・ 国 : オーストリア
- ・ 所属 : TU GRAZ
- ・ 概要 : 電子機器のケーブルに流れるコモンモード電流を基に放射エミッションを推定する方法の評価結果が報告された。テレビ、ノート PC などのコンシューマ向け電子機器の形状を模擬して、ケーブル長や接続点のインピーダンスを変化させ、ケーブル電流と放射エミッションを計算してシミュレーションを実施。シミュレーションで用いた推定方法は、(1) 周波数依存の簡易式を使用した推定方法、(2) 放射インピーダンスを一定と仮定した推定方法、(3) 有限長ダイポールアンテナの解析式を使用した推定方法、(4) (1) ~ (3) を組み合わせたハイブリッド推定方法の 4 種類の推定方法を適用し、平均誤差を基に推定制度を評価した。評価の結果、30 MHz~300 MHz の周波数範囲で、平均誤差が 4 dB 以下と高い精度を示した。(4) の推定方法の精度が最も高く、平均誤差が 3 dB 以下であることが確認された。しかしながら、テレビなどの大型機器では、ケーブル以外の要因が放射エミッションに影響を与えるため、推定精度が低下する可能性があることが報告された。
- ・ 所感 : ケーブルのコモンモード電流から放射エミッションを推定することは電子機器の開発においては非常に有用であるが、大型機器ではケーブル以外の要因によって推定精度が低くなるほか、ケーブル以外からの放射が推定されていないため、電子機器全体からの放射エミッションを推定できないことが課題であり、今後の研究が期待される。

(2) Measurement Techniques (Part 2)

- ・ 題目 : Time-Domain Measurement Method for Simultaneous Evaluation of 16 Measurement Points for Intrinsic-Testing Electric Drive Systems
- ・ 発表者 : Mr. Michael Fuchs
- ・ 国 : ドイツ
- ・ 所属 : Volkswagen AG
- ・ 概要 : 電気自動車の高電圧電動ドライブシステムにおける放射エミッション測定のための新しいタイムドメイン測定手法が提案された。従来の周波数ドメインの測定に加え、最大 16 箇所の測定点を同時にタイムドメインで評価することで、電流・電圧のコモンモードおよびディファレンシャルモードの挙動を詳細に把握できる。測定は CISPR 25 に準拠し、実車に近い構成と負荷条件で実施した。測定結果を周波数ドメインの放射エミッション測定データやシミュレーションモデルと比較し、有効性を検証した。検証の結果、16 点同時測定により、ノイズ源や主要な結合経路の特定が可能となった。フィルタ素子の飽和による非線形挙動や、システム共振点 (300 kHz~400 kHz 付近) をタイムドメインの測定データから明確に把握できることが分かった。また、シミュレーションモデルとの相関が確認され、モデルの精度向上に寄与できた。更に、提案された測定手法は 100 MHz までの広帯域に対応し、実車環境に近い条件での評価が可能であることが報告された。
- ・ 所感 : 提案された測定方法は、従来の周波数ドメイン中心の EMC 評価を補完し、開発初期段階での課題抽出やモデル検証に有効である。特に、複雑な電動ドライブシステムにおいて、ノイズ源の特定や対策検討を迅速に行うための強力なツールとなり得る。CISPR 32 の適用範囲であるマルチメディア機器へも応用が可能かどうか、今後の研究結果を注視していきたい。

(3) Measurement Techniques (Part 3)

- ・ 題目 : Effects of Resonant Frequency Variation in a Vibrating Intrinsic Reverberation Chamber
- ・ 発表者 : Mr. Matthias Weidmeier
- ・ 国 : ドイツ
- ・ 所属 : Technische Universität Braunschweig
- ・ 概要 : 振動型イントリンジックリバーブレーションチャンバー (VIRC) 内の共振周波数変動を用いて、モード攪拌効率を評価する手法を提案していた。これにより、壁を機械的に振動させて共振モードを変化させ、得られた周波数変動から攪拌の均一性や効率を解析し、最適な攪拌戦略の検討に役立てている。
- ・ 所感 : CISPR 32 Ed3.0 ではリバブレーションチャンバーが規定として適用される可能性がある。他のタイプのリバブレーションチャンバーに対する有効性や、改善されたリバブレーションチャンバーと従来の電波半無響室での放射エミッション測定結果との相関性について注目していきたい。

(4) Wireless Power Transfer Systems and their impact on EMC and EMF Safety (Part 1)

- ・ 題目 : Laboratory WPT3 11 kW Wireless Power Transfer System compliant to IEC 61980 Class B H-Field Limits based on Reference Designs
- ・ 発表者 : Mr. Maximilian Hollenbach
- ・ 国 : ドイツ
- ・ 所属 : Institut fur Automation und Kommunikation e.V.
- ・ 概要 : IEC 61980-3 および SAE J2954 のリファレンス設計に基づいた 11 kW 級 WPT システムの開発と、IEC 61980-1 Class B の磁界放射エミッション許容値 (9 kHz~30 MHz) を満たすための EMC 設計・評価手法について報告された。システム各構成要素に対するノイズ源の特定と対策、実測に基づく設計改善のプロセスが詳細に示された。
- ・ 所感 : WPT システムの放射エミッション測定において、規格準拠の測定手法、ノイズ源の特定、実装環境を反映した評価、ワーストケース探索、設計改善のフィードバックなど、マルチメディア機器の WPT のエミッション測定方法検討に直接応用可能な知見が多数含まれていた。今後の WPT 搭載機器の EMC 評価・設計において、非常に参考となる内容であった。

(5) Wireless Power Transfer Systems and their impact on EMC and EMF Safety (Part 2)

- ・ 題目 : Multi-objective Optimization of a WPT System for UAVs
- ・ 発表者 : Mr. Mohammed TERRAH
- ・ 国 : フランス
- ・ 所属 : Universite Paris-Saclay/ Sorbonne Universite/ Institut Polytechnique des Sciences Avancees Paris
- ・ 概要 : UAV (無人航空機) 向けワイヤレス給電 (WPT) システムの効率・重量・放射磁界を同時に最適化する手法が紹介された。有限要素法 (FEM) と回路モデルを組み合わせたシミュレーションにより、様々な設計パラメータ (コイル巻数、フェライト形状等) が効率や磁界強度に与える影響を評価し、ニューラルネットワークを用いたメタモデルと遺伝的アルゴリズムによる多目的最適化が実施されたことが報告された。
- ・ 所感 : WPT システムのエミッション評価において、測定位置・条件の設定、システム構成要素の影響、複数パラメータの最適化、実験とシミュレーションの連携など、マルチメディア機器への応用にも有用な知見が多くみられた。特に、実際の機器搭載環境や使用状況を想定した測定方法の重要性が強調されており、今後のエミッション測定手法の検討に参考となると思われる。

5. Exhibition 概要

従来から展示に参加していた会社の動向が注目されたが、展示ブースには32社が参加、日本のメーカーからも出展されていた。

6. 所感

マルチメディア機器に関連するセッションではRVCやWPTに関する内容が多かった。また、機器で使用される無線が高周波帯で利用され、18 GHz～40 GHz帯域での測定場の評価、測定装置や許容値の検討がされており、高周波帯域での測定機器、アンテナなどの動向に注目していきたい。

以上より、技術専門委員会での活動テーマとして、CISPR 32次期改定やCISPRでの新たな審議事項である、RVC、WPTや18 GHz～40 GHz帯域での検証方法のエミッション測定方法を取り上げていくことが必要と感じた。

なお、発表論文の内容の傾向を考察すると、シミュレーション結果と実際の測定結果を比較検証し、シミュレーションの妥当性を確認するとともに、新たな測定方法や新規性のある研究成果を提案している論文が多かった。

今後も、CISPR 32改定審議動向を注視するとともに、測定結果の再現性向上が図れる電源ケーブル終端デバイスや改良型AANについての検証などの研究成果について、2026年のAPEMC、IEEE EMC+SIPI及びEMC EUROPEへの論文投稿を行っていく。

RVC: Reverberation Chamber

WPT: Wireless Power Transfer

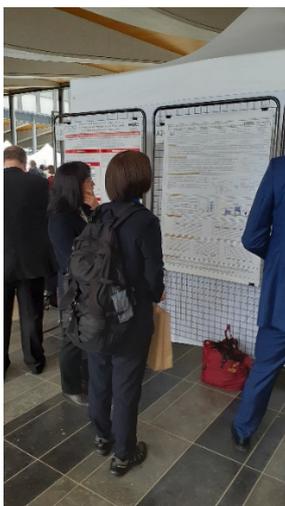
AAN: Asymmetric Artificial Network



会場入口



ポスターセッション会場及び展示ブース



三宅委員のポスターセッション

CEATEC 2025 出展報告

広報専門委員会

標記の展示会に出展したことを以下に報告する。

展示会名：CEATEC 2025

<https://www.ceatec.com/ja/>

会場：幕張メッセ
会期：2025年10月14日（火）～17日（金）
登録来場者合計：98,884名
出展者数：810社／団体



1. 出展目的

CEATECはアジア最大級の規模を誇るIT技術とエレクトロニクスの国際展示会であり、国内外のエンジニアだけでなく、学生を含む一般消費者も多く来場するため、VCCI協会活動およびVCCIマークの認知度向上等を目的として出展した。

2. VCCI協会ブース

入会案内等の資料を置き、2種類のパネルを掲出し、VCCI協会紹介動画を放映した。

●掲出パネル

新規作成した「VCCI協会のあゆみ」および「ご存じですか このマーク」の2種類のLEDパネルを掲出した。

●資料（*は英語版も用意）

- ・VCCI協会について（3つ折りパンフレット）*
- ・VCCI入会案内*
- ・アニュアルレポート2023年度版*
- ・国際規格CISPR 32の適用範囲*
- ・VCCI協会の教育研修会案内



●紹介動画（日本語版）

「VCCIマークとは」「VCCIマークをつけるには」
「VCCIの適用範囲について」の3テーマ（約7分）

●ブース訪問者

会期中のブース訪問者は142名（内訳：日本126、中国11、台湾3、ポーランド2）

その内53名の方にアンケートにご協力いただいた。

ご協力者には、2026年卓上カレンダーと使用したボールペン他、ノベルティをお渡しした。

後日、ブース訪問者にお礼メールを送付した。

3. オンライン：出展者展示情報ページ

主催者の掲載条件に合わせて、オンライン上に掲載



出展者展示情報ページイメージ

4. 今後の課題

ブース対応者からコメントをいただき、より多くの方にブースに立ち寄っていただくよう、今後の展示内容として以下実施の検討予定

- ・VHF-LISN実機展示
- ・教育研修会のPR強化、等

5. 所感

会場は多くの来場者で賑わっていて、当協会のブースにも立ち寄りの方が多くいらした。

VCCI協会・VCCIマークを知らない方も多く、興味を持っていただく良い機会になった。今回はアジア（中国・台湾）からの来場者も目立ったため、日本の自主規制のマークとして知っていただけた。

今後も、VCCI協会の活動やVCCIマークについての広報活動における有効な機会として、継続して出展を行っていく予定である。



VCCI協会ブース

VCCI 協会創立 40 周年記念行事開催報告

VCCI 協会事務局

2025年12月19日に、一般財団法人VCCI協会は、前身であるVCCI（情報処理装置等電波障害自主規制協議会）の創立から40周年を迎えました。これを記念し、2025年11月28日に東京都千代田区大手町のKKRホテル東京において、VCCI協会創立40周年の記念講演会並びに記念式典を開催いたしましたので、その概要をご報告申し上げます。

【記念講演会 開催要領】

日時：2025年11月28日（金）14：00～17：30

会場：KKRホテル東京 11階「孔雀の間」

【講演内容】

1. 海外法規制関連の講演

- ・「Conformity Assessments in Europe A journey through time(1892-2027)」

講演者：Mr. Holger Bentje (REDCA chairperson)

1892年に始まったドイツのEMC規制から、2027年にEUに適用される新しい法規制までの概要をご紹介いただきました。併せて、RED（無線機器指令）に関連する新リスクアセスメントガイドやサイバーレジリエンス法、関連する整合規格、人工知能法についてもご説明いただきました。

- ・「Draft ANSI C63.4 :202? A review」(ANSI C63.4:202? レビュー案)

講演者：Mr. Andy Griffin (ANSI C63.4 WG chairperson)

ANSI C63.4改定の最新の検討状況や主要な更新点、関連するKDB、1 GHz超の周波数における不要輻射測定方法の課題と現実的な解決策についてご説明いただきました。

- ・「中国電気電子EMC規制の現状及びその他のEMC規制の関連情報」

講演者：梁 敏氏 (CCIC・JAPAN、CQC日本ブランチ)

中国におけるEMC規制について、CCC認証、GB規格、業界規格の観点からご講演いただきました。中国では、法規制の対象品でなくても該当するGB規格の対象であれば、EMCの規格要件を満足する必要があること、サービスロボットにおけるCQCでのEMC認証取得事例についてもご紹介いただきました。

また、中国では最近、国際規格の迅速な国内規格化に注力していることをご説明いただきました。

- ・「The latest developments of the EU electrical, electronic and machinery legislation」

講演者：Mr. Nikos Michailidis（EU Commission）（録画ビデオ放映）

EUにおけるEMC指令、低電圧指令、無線機器指令（RED）、2027年1月20日から完全適用される新しい機械規則、2027年12月11日より完全適用されるサイバーレジリエンス法（CRA）、2024年8月から段階的な実施が始まっている人工知能法、デジタル化と共通仕様に関するオムニバス案等に関する最新情報をご紹介します。

2. 創立記念特別表彰

講演者が所属する団体への感謝を込め、上記4名の皆様に対し、平井理事長より創立40周年記念の特別表彰を行いました。

（EU Commissionにつきましては、代理人として在日欧州連合代表部のMr. Martin Mitovへお渡しいたしました）

3. VCCI協会関係者による講演

- ・「VHF-LISNガイダンス（VCCI 32-1-L:2024）による放射エミッション測定の実施について」

講演者：長部 邦廣氏（VCCI協会）

当協会が提案した平衡型VHF-LISNが2025年10月発行のCISPR 16-1-4第5版に掲載されました。このデバイスにより、VHF帯（30 MHz～300 MHz）における放射エミッション測定における試験サイト間での測定結果の再現性が向上いたします。また、当協会はこのデバイスを用いた放射エミッション測定に関するガイダンスを発行したので、その概要をご説明し、これに基づく放射エミッション測定の推奨をいたしました。

4. 特別講演

- ・「電波利用の現状と今後の課題」 – CISPR規格の国内制度への反映 –

講演者：総務省 総合通信基盤局 電波部 電波環境課 課長 向井 ちほみ氏

無線局数増加、WX推進戦略、太陽光発電システムの妨害波事例、CISPR規格の国内制度化状況等についてご説明いただきました。

- ・「製品安全行政を巡る動向」 ～電気用品安全を中心に～

講演者：経済産業省 大臣官房 産業保安・安全グループ 製品安全課 課長 森本 将史氏

消費生活用製品安全法等の改正、インターネット取引拡大への対応、子供用製品の安全確保（令和7年12月施行）、電気用品安全法の国際整合化状況等についてご説明いただきました。

【記念講演会 概要】

平井理事長のご挨拶に続き、海外からご招待した講演者より各国規制の最新動向について、またVCCI協会からは技術情報、さらに総務省および経済産業省からは国内法規制の最新状況について、それぞれご講演いただきました。

講演会の途中では、これまで当協会の活動に多大なご協力をいただいた海外4団体に対し、表彰式を執り行い、記念の表彰盾ならびに記念品を贈呈いたしました。

当日は、国内会員である製造事業者や試験機関を中心に、約110名の皆様にご参加いただき、盛況のうちに記念講演会を終えることができました。



平井 理事長



Mr. Holger Bentje



Mr. Andy Griffin



梁 敏氏



海外講演者表彰式記念撮影



長部 邦廣氏

記念講演会終了後、会場を移動して記念式典が開催されました。

【記念式典 開催要領】

日時：2025年11月28日（金）18：00～20：00

会場：KKRホテル東京 10階「瑞宝の間」

【式次第】

1. 開会の挨拶

一般財団法人VCCI協会 理事長 平井 淳生

2. 来賓ご祝辞

総務省 総合通信基盤局 電波部 電波環境課 課長 向井 ちほみ氏

経済産業省 商務情報政策局 情報産業課 課長 南部 友成氏

3. 日本酒樽の鏡開き（ご参加者）

総務省 総合通信基盤局 電波部 電波環境課 課長 向井 ちほみ氏

経済産業省 大臣官房産業保安・安全グループ 製品安全課 課長 森本 将史氏

経済産業省 商務情報政策局 情報産業課 課長 南部 友成氏

Mr. Holger Bentje (REDCA Chairperson)

Mr. Andy Griffin (Chair of ANSI C63.4 WG)

劉 彦賓氏 (CCIC・JAPAN 社長、CQC日本ブランチ)

Mr. Martin Mitov (在日欧州連合代表部)

Mr. Jens Medler (Rohde & Schwarz)

VCCI協会 評議員長 大崎 博之氏、理事長 平井 淳生、常務理事 小田 明

4. 乾杯ご挨拶・ご発声

一般財団法人VCCI協会 評議員長 大崎 博之氏

5. 関係者記念撮影

6. 懇談（懇談中にご挨拶）

Mr. Holger Bentje

Mr. Andy Griffin

劉彦賓氏、梁敏氏

Mr. Martin Mitov

Mr. Jens Medler

7. 余興（三味線演奏）

澤田勝邦氏、澤田勝紀氏

8. 中締め

一般財団法人VCCI協会 常務理事 小田 明

【記念式典 概要】

冒頭、平井理事長より、記念講演会でご講演いただいた皆様、ご来賓の皆様、ご参加の皆様への謝辞と、40年前のVCCI発足当時の所感を交えた開会の辞がございました。その後は、式次第に沿って式典を進行いたしました。

ご来賓の皆様からのご祝辞に続き、鏡開きでは2樽をご用意し、乾杯のご発声をVCCI協会評議員長・大崎博之氏をお願いいたしました。乾杯の後には、関係者による記念撮影を行いました。

懇談中には、海外からのご招待者より創立40周年を祝うご挨拶を頂戴したほか、澤田勝邦氏、澤田勝紀氏による津軽三味線の演奏も披露され、場を大いに盛り上げていただきました。

最後に、小田常務理事より中締めが行われ、20時に閉会いたしました。参加者は約120名でした。



海外招待者・来賓記念撮影



Mr. Martin Mitov



Mr. Holger Bentje



Mr. Andy Griffin



劉彦賓氏



梁敏氏



Mr. Jens Medler



澤田勝紀氏・澤田勝邦氏

2025 年度 市場採取試験実施状況

市場採取試験専門委員会

2025年12月25日

計画件数	買入	65
------	----	----

選定期間	選定件数	中止 (未出荷等)	試験確定 有効件数	試験完了 件数 (内数)	判定結果			
					合格	不合格水準		
						合格判定	不合格	調査中
総計	67	2	63	43	42	0	0	1

市場買入試験 計		67	2	63	43	42	0	0	1
時期 (内数)	第1四半期	23	2	21	21	21	-	-	-
	第2四半期	23	-	23	22	21	-	-	1
	第3四半期	16	-	15	-	-	-	-	-
	第4四半期	5	-	4	-	-	-	-	-

2025 年度集計	合格	不合格	調査中
	42	0	1

書類審査	計画件数	選定件数	中止 (退会等)	審査確定 有効件数	予備 審査済	審査完了	審査結果内訳	
							問題なし	是正済
	50	53	2	45	44	40	39	1

事務局だより

● 会員名簿（2025年10月～12月）

新入会員

会 員	会員番号	会社名	国・地域
国内正会員	4468	株式会社イグアス	JAPAN
国内正会員	4472	あたらしいインターネット株式会社	JAPAN
国内正会員	4473	伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	JAPAN
国内正会員	4478	ZUNDA株式会社	JAPAN
国内正会員	4486	チャットボイス株式会社	JAPAN
国内正会員	4490	NHPソリューション株式会社	JAPAN
海外正会員	4463	Tools For Humanity Corporation	USA
海外正会員	4466	RealSense, Inc.	USA
海外正会員	4467	ZINIK	KOREA
海外正会員	4469	FLYTECHTECHNOLOGY CO., LTD.	TAIWAN
海外正会員	4470	LENGDA (XIAMEN) COMPANY LIMITED.	CHINA
海外正会員	4474	Anhui Wenxiang Information Technology Co.,Ltd.	CHINA
海外正会員	4475	Shanghai Xiangcheng Communication Technology Co., Ltd.	CHINA
海外正会員	4476	LDA Technologies Ltd.	CANADA
海外正会員	4477	KORE Wireless Inc.	USA
海外正会員	4479	Trezor Company s.r.o.	CZECH
海外正会員	4480	EcoFlow Inc.	CHINA
海外正会員	4482	IGRS ENGINEERING LAB LTD.	CHINA
海外正会員	4483	Shanghai Longcheer Technology Co., Ltd.	CHINA
海外正会員	4484	Securelink Co., Ltd.	KOREA
海外正会員	4485	Atomos Global Pty Ltd	AUSTRALIA
海外正会員	4487	ModRetro, Inc.	USA
海外正会員	4488	ALT Co., Ltd.	KOREA
海外正会員	4489	SIRETTA LIMITED	UK
海外正会員	4492	Aria Networks, Inc.	USA
海外賛助会員	4464	Intertek Testing Services Zhejiang Ltd.	CHINA
海外賛助会員	4471	DongGuan ShuoXin Electronic Technology Co., Ltd.	CHINA
海外賛助会員	4481	Xingsheng Certification Service (Hefei) Co., Ltd.	CHINA

社名変更

会 員	会員番号	会社名	国・地域	旧社名
国内正会員	279	NTT 株式会社	JAPAN	日本電信電話株式会社
国内正会員	394	NTT アドバンステクノロジー株式会社	JAPAN	エヌ・ティ・ティ・アドバンステクノロジー株式会社
国内正会員	1394	シャープディスプレイソリューションズ株式会社	JAPAN	シャープ NEC ディスプレイソリューションズ株式会社
国内正会員	4413	AI ストーム株式会社	JAPAN	株式会社ジェクシード
海外正会員	1960	Penguin Solutions Corporation	USA	SMART Modular Technologies, Inc.
海外正会員	3124	ATP Electronics Taiwan Inc., STSP Branch	TAIWAN	ATP Electronics Taiwan Inc.
海外正会員	3925	Pacific Smart Systems Limited	HONG KONG	Pismo Labs Technology Limited
海外正会員	4223	xFusion Digital Technologies Co., Ltd.	CHINA	xFusion Digital Technologies Co., Limited
海外賛助会員	4036	Bay Area Compliance Laboratories Corp. (Chengdu)	CHINA	Bay Area Compliance Laboratories (Chengdu)
海外賛助会員	4361	LabSure Testing Services (Tianjin) Co., Ltd.	CHINA	Tianjin Dongdian Testing Service Co., Ltd.
海外賛助会員	4408	LabSure Testing Services (Suzhou) Co., Ltd.	CHINA	Suzhou Dongdian Testing Service Co., Ltd.

お願い：会社名等を変更された場合は、ウェブサイト内の「様式9 変更届」をご提出ください。

● VCCI 2026年度イベント等スケジュール

4月	5月	6月 COMPUTEX TAIPEI VCCIだよりNo.161発行
7月 TECHNO-FRONTIER 2026	8月 アニュアルレポート発行	9月 VCCIだよりNo.162発行
10月 CEATEC 2026	11月	12月 VCCIだよりNo.163発行
1月	2月 技術シンポジウム（予定）	3月 VCCIだよりNo.164発行

● 適合確認届出状況

2025年10月～12月（製品名は例を示しており、これに限定するものではありません）

分類・製品名（例）			分類コード		2025年10月			2025年11月			2025年12月			
			クラスA	クラスB	クラスA	クラスB	合計	クラスA	クラスB	合計	クラスA	クラスB	合計	
情報技術装置	コンピュータ	大型	スーパーコンピュータ、サーバなど	A 2	a 2	34	0	34	21	4	25	34	1	35
		据置型	WS、デスクトップPCなど	B 2	b 2	5	17	22	0	27	27	11	25	36
		可搬型	ノートPC、タブレットPCなど	C 2	c 2	0	36	36	0	76	76	2	59	61
		その他のコンピュータ	その他のコンピュータ、ウェアラブルコンピュータなど	E 2	e 2	6	8	14	4	0	4	4	0	4
	周辺・端末装置	記憶装置	HDD、SSD、USBメモリ、メディアドライバなど ディスク装置、NAS、DAS、SANなど	G 2	g 2	9	17	26	19	12	31	13	13	26
		印刷装置	プリンタ（複合機含む）など（可搬型）	H 2	h 2	8	1	9	4	3	7	2	3	5
		表示装置	CRTディスプレイ、モニタ、プロジェクタなど	J 2	j 2	3	59	62	13	75	88	3	94	97
		その他の入出力装置	イメージスキャナ、OCRなど	M 2	m 2	1	3	4	0	3	3	2	12	14
		汎用端末装置	ディスプレイコントローラ端末など	N 2	n 2	1	0	1	0	1	1	0	1	1
		専用端末装置	POS、金融・保険用など	Q 2	q 2	2	4	6	1	5	6	3	4	7
その他の周辺装置		その他（PCIカード、グラフィックカード、マウス、キーボードなど）	R 2	r 2	3	44	47	6	40	46	9	31	40	
複写機・複合機	複写機・複合機など（据え付け型）	S 2	s 2	2	1	3	0	0	0	1	1	2		
通信装置	通信端末機器	携帯電話、スマートフォン、PHS電話機	T 2	t 2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
		電話装置（PBX、FAX、ボタン電話装置、など）、コードレス電機	U 2	u 2	0	0	0	0	1	1	2	0	2	
	ネットワーク関連機器	回線接続装置（変復調装置（モデム）、デジタル伝送装置、DSU、TAなど）	V 2	v 2	3	0	3	0	3	3	6	0	6	
		LAN関連装置（ルータ、ハブなど）、局用交換機、など	W 2	w 2	63	16	79	60	24	84	38	21	59	
その他の通信装置	その他の通信装置	X 2	x 2	1	6	7	4	5	9	3	6	9		
放送用受信機		テレビ、ラジオ、チューナ、ビデオレコーダ、セットトップBOXなど	/	k 2	/	0	0	/	1	1	/	2	2	
オーディオ機器		スピーカ、アンプ、ICレコーダ、MP3プレーヤ、ヘッドセットなど	L 2	l 2	0	3	3	0	2	2	0	4	4	
ビデオ機器	ビデオ機器	デジタルビデオカメラ、Webカメラ、ネットワークカメラ、ビデオプレーヤ、フォトフレーム、デジカメなど	I 2	i 2	5	7	12	15	7	22	3	11	14	
	その他のビデオ機器	VRゴーグルなど	P 2	p 2	2	0	2	0	0	0	3	0	3	
娯楽用照明制御装置		娯楽用照明制御装置など	Z 2	z 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他のMME	娯楽・教育機器	電子文具	電子辞書、電子書籍リーダーなど	D 2	d 2	0	2	2	0	2	2	0	0	0
		電子玩具	ゲーム機、ゲームパッド、玩具用ドローンなど	Y 2	y 2	1	5	6	0	1	1	0	0	0
		その他の娯楽・教育機器	ナビゲータなど	F 2	f 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他のMME	上記いずれにも該当しない	O 2	o 2	3	4	7	5	8	13	7	4	11	
計						152	233	385	152	300	452	146	293	439

● 測定設備等の登録状況

測定設備等の最近3か月の新規登録分を以下に示します。

ここに掲載されているものは、原則として登録申請会員から掲載希望があったもののみです。
全設備（ただし、公表を希望しない設備を除く）は、ウェブサイトに掲載しています。

新規登録測定設備一覧（2025年10月～12月）

会社名	設備名	3m	10m	30m	暗 3m	暗 10m	登録番号	有効期限	設備所在地
3CTest Ltd	Anechoic Chamber 3	-	-	-	-	-	C-20214	2028/10/26	Silverstone Technology Park, Silverstone Circuit, Northamptonshire, United Kingdom
BTL Inc. (Dongguan)	DGGDC01-1	-	-	-	-	-	C-20212	2028/10/26	Room 102 & 702, Building A3, No. 9, Jinshagang 1st Road, Dalang, Dongguan, Guangdong, China
BTL Inc. (Dongguan)	DGGDC01-1	-	-	-	-	-	T-20214	2028/10/26	Room 102 & 702, Building A3, No. 9, Jinshagang 1st Road, Dalang, Dongguan, Guangdong, China
Nemko Korea Co., Ltd.	Shield Room #3 AC mains power ports	-	-	-	-	-	C-20217	2028/10/26	165-51, Yurim-ro, Cheoin-gu, Yongin-si, Gyeonggi-do, Republic of Korea
Nemko Korea Co., Ltd.	Shield Room #3 Telecommunication (Wired) ports	-	-	-	-	-	T-20219	2028/10/26	165-51, Yurim-ro, Cheoin-gu, Yongin-si, Gyeonggi-do, Republic of Korea
Guangzhou Jingce Testing Technology Co., Ltd.	Hefeng No. 2 3 m Semi-anechoic chamber	-	-	-	○	-	R-20259	2028/10/26	No. 10, Hefeng No.1 street, Huangpu District, Guangzhou, Guangdong, China
Guangzhou Jingce Testing Technology Co., Ltd.	10 m Semi-anechoic chamber	-	-	-	○	○	R-20260	2028/10/26	No. 246, Shenzhou Road, Huangpu District, Guangzhou, Guangdong, China
Guangzhou Jingce Testing Technology Co., Ltd.	Hefeng CE Shielded room	-	-	-	-	-	T-20216	2028/10/26	No. 10, Hefeng No. 1 street, Huangpu District, Guangzhou, Guangdong, China
Guangzhou Jingce Testing Technology Co., Ltd.	10 m Semi-anechoic chamber	-	-	-	-	-	G-20248	2028/10/26	No. 246, Shenzhou Road, Huangpu District, Guangzhou, Guangdong, China
Guangzhou Jingce Testing Technology Co., Ltd.	Hefeng CE Shielded room	-	-	-	-	-	C-20211	2028/10/26	No. 10, Hefeng No. 1 street, Huangpu District, Guangzhou, Guangdong, China
CSA Group Test and Certification Singapore Pte. Ltd (EMC)	10 m semi-anechoic chamber- RE measurement below 1 GHz	-	-	-	-	○	R-20261	2028/10/26	7 Science Park Drive, #01-21/24, GENE0, Singapore
CCIC-CSA International Certification Co., Ltd. Kunshan Branch	10 m Semi-anechoic chamber	-	-	-	-	-	G-20249	2028/10/26	2F-1, Building C12, No. 555 Dujuan Road, Kunshan Economic & Technical Development Zone Kunshan, Jiangsu, China
CCIC-CSA International Certification Co., Ltd. Kunshan Branch	Shielded room	-	-	-	-	-	C-20216	2028/10/26	2F-1, Building C12, No. 555 Dujuan Road, Kunshan Economic & Technical Development Zone Kunshan, Jiangsu, China

会社名	設備名	3m	10m	30m	暗 3m	暗 10m	登録番号	有効期限	設備所在地
CCIC-CSA International Certification Co., Ltd. Kunshan Branch	Shielded room	-	-	-	-	-	T-20218	2028/10/26	2F-1, Building C12, No. 555 Dujuan Road, Kunshan Economic & Technical Development Zone Kunshan, Jiangsu, China
CCIC-CSA International Certification Co., Ltd. Kunshan Branch	10 m Semi-anechoic chamber	-	-	-	-	○	R-20263	2028/10/26	2F-1, Building C12, No. 555 Dujuan Road, Kunshan Economic & Technical Development Zone Kunshan, Jiangsu, China
Xingsheng Certification Service (Suzhou) Co., Ltd.	SR1	-	-	-	-	-	C-20218	2028/10/26	Building 1, Xinjiacun Industrial Zone, Changqiao Subdistrict, Wuzhong District, Suzhou, Jiangsu, China
Xingsheng Certification Service (Suzhou) Co., Ltd.	SR1	-	-	-	-	-	T-20220	2028/10/26	Building 1, Xinjiacun Industrial Zone, Changqiao Subdistrict, Wuzhong District, Suzhou, Jiangsu, China
CSA Group Test and Certification Singapore Pte. Ltd (EMC)	10 m semi-anechoic chamber- RE measurement above 1 GHz	-	-	-	-	-	G-20252	2028/10/26	7 Science Park Drive, #01-21/24, GENE0, Singapore
CSA Group Test and Certification Singapore Pte. Ltd (EMC)	Conducted Emission Room- AC mains power port	-	-	-	-	-	C-20215	2028/10/26	7 Science Park Drive, #01-21/24, GENE0, Singapore
SONY EMCS (MALAYSIA) SDN. BHD	CE1 Shielded Room	-	-	-	-	-	C-20213	2028/10/26	Lot 5, Jalan Kemajuan, Bangi Industrial Estate, Bandar Baru Bangi, Selangor, Malaysia
SONY EMCS (MALAYSIA) SDN. BHD	RE2 3 m Semi-Anechoic Chamber	-	-	-	○	-	R-20258	2028/10/26	Lot 5, Jalan Kemajuan, Bangi Industrial Estate, Bandar Baru Bangi, Selangor, Malaysia
SONY EMCS (MALAYSIA) SDN. BHD	RE2 3 m Semi-Anechoic Chamber	-	-	-	-	-	G-20246	2028/10/26	Lot 5, Jalan Kemajuan, Bangi Industrial Estate, Bandar Baru Bangi, Selangor, Malaysia
SONY EMCS (MALAYSIA) SDN. BHD	CE1 Shielded Room	-	-	-	-	-	T-20215	2028/10/26	Lot 5, Jalan Kemajuan, Bangi Industrial Estate, Bandar Baru Bangi, Selangor, Malaysia
Huarui 7layers High Technology (Suzhou) Co., Ltd	3 m Semi-anechoic Chamber	-	-	-	○	-	R-20262	2028/10/26	Tower N, Innovation Center, 88 Zuyi Road, High-tech District, Suzhou City, Anhui Province, People's Republic of China
Kiwa Netherlands B.V.	Kiwa Netherlands B.V.	-	-	-	○	-	R-20264	2028/10/26	Wilmersdorf 50, Apeldoorn, the Netherlands
BTL Inc.	CB25	-	-	-	-	-	C-20219	2028/10/26	No. 85, Ln. 298, Wengong 1st Rd., Guishan Dist., Taoyuan City, Taiwan
SAMSUNG ELECTRONICS Co., Ltd.	Samsung Suwon EMC Test R4 Lab	-	-	-	-	-	T-20217	2028/10/26	(Maetan dong) 129, Samsung-ro, Yeongtong-gu, Suwon-si, Gyeonggi-do, Republic of Korea
BTL Inc	CB25	-	-	-	-	-	T-20222	2028/11/16	No. 85, Ln. 298, Wengong 1st Rd., Guishan Dist., Taoyuan City 333001, Taiwan

会社名	設備名	3m	10m	30m	暗 3m	暗 10m	登録番号	有効期限	設備所在地
BTL Inc	CB25	-	-	-	-	-	G-20251	2028/11/16	No. 85, Ln. 298, Wengong 1st Rd., Guishan Dist., Taoyuan City 333001, Taiwan
Huawei Technologies Co., Ltd.	No. 2 RE test site in Shanghai (10 m chamber)	-	-	-	-	○	R-20265	2028/11/16	Huawei Lianqiu Lake R&D Center, Jinze Town, Qingpu District, Shanghai, China
Huawei Technologies Co., Ltd.	No. 1 RE test site in Shanghai (3 m chamber)	-	-	-	-	-	G-20255	2028/11/16	Huawei Lianqiu Lake R&D Center, Jinze Town, Qingpu District, Shanghai, China
Huawei Technologies Co., Ltd.	No. 1 CE test site in Shanghai	-	-	-	-	-	C-20220	2028/11/16	Huawei Lianqiu Lake R&D Center, Jinze Town, Qingpu District, Shanghai, China
Huawei Technologies Co., Ltd.	No. 1 CE test site in Shanghai	-	-	-	-	-	T-20221	2028/11/16	Huawei Lianqiu Lake R&D Center, Jinze Town, Qingpu District, Shanghai, China
Huawei Technologies Co., Ltd.	No. 1 RE test site in Shanghai (3 m chamber)	-	-	-	-	-	R-20266	2028/11/16	Huawei Lianqiu Lake R&D Center, Jinze Town, Qingpu District, Shanghai, China
Huawei Technologies Co., Ltd.	No. 2 RE test site in Shanghai (10 m chamber)	-	-	-	-	-	G-20254	2028/11/16	Huawei Lianqiu Lake R&D Center, Jinze Town, Qingpu District, Shanghai, China
Guangzhou Jingce Testing Technology Co., Ltd.	Hefeng No. 2 3 m Semi-anechoic chamber	-	-	-	-	-	G-20247	2028/11/16	No. 10, Hefeng No.1 street, Huangpu District, Guangzhou, Guangdong, China
CSA Group Bayern GmbH	FAR SER3	-	-	-	-	-	G-20253	2028/11/16	Straubinger Strasse 100, D-94447 Plattling, Germany
DongGuan ShuoXin Electronic Technology Co., Ltd.	Conduction Room AC	-	-	-	-	-	C-20222	2028/12/21	Zone A, 1F, No. 6, XinGang Road YuanGang Street, XinAn District, ChangAn Town, DongGuan City, GuangDong, China
DongGuan ShuoXin Electronic Technology Co., Ltd.	966 Chamber 1 up to 1 GHz	-	-	-	○	-	R-20269	2028/12/21	Zone A, 1F, No. 6, XinGang Road YuanGang Street, XinAn District, ChangAn Town, DongGuan City, GuangDong, China
Huarui 7layers High Technology (Suzhou) Co., Ltd.	3 m Semi-anechoic Chamber	-	-	-	-	-	G-20250	2028/12/21	Tower N, Innovation Center, 88 Zuyi Road, High-tech District, Suzhou City, Anhui Province, People's Republic of China
DongGuan ShuoXin Electronic Technology Co., Ltd.	966 Chamber 1 Above 1 GHz	-	-	-	-	-	G-20258	2028/12/21	Zone A, 1F, No. 6, XinGang Road YuanGang Street, XinAn District, ChangAn Town, DongGuan City, GuangDong, China
DongGuan ShuoXin Electronic Technology Co., Ltd.	Conduction Room ISN	-	-	-	-	-	T-20223	2028/12/21	Zone A, 1F, No. 6, XinGang Road YuanGang Street, XinAn District, ChangAn Town, DongGuan City, GuangDong, China
Nemko Korea Co., Ltd.	10 m Chamber #2 above 1 GHz	-	-	-	-	-	G-20256	2028/12/21	165-51, Yurim-ro, Cheoin-gu, Yongin-si, Gyeonggi-do, Republic of Korea
Nemko Korea Co., Ltd.	10 m Chamber #2 below 1 GHz	-	-	-	○	○	R-20267	2028/12/21	165-51, Yurim-ro, Cheoin-gu, Yongin-si, Gyeonggi-do, Republic of Korea

会社名	設備名	3m	10m	30m	暗 3m	暗 10m	登録番号	有効期限	設備所在地
Shenzhen BALUN Technology Co., Ltd.	Yanluo-3 m Chamber	-	-	-	-	-	G-20257	2028/12/21	Building 2, Intelligent Connected Vehicle Industrial Park, No. 55, Xiangshan Road, Luotian Community, Yanluo Sub-district, Bao'an District, Shenzhen, GuangDong Province, P. R. China
Shenzhen BALUN Technology Co., Ltd.	Yanluo-10 m Chamber	-	-	-	-	○	R-20268	2028/12/21	Building 2, Intelligent Connected Vehicle Industrial Park, No. 55, Xiangshan Road, Luotian Community, Yanluo Sub-district, Bao'an District, Shenzhen, GuangDong Province, P. R. China
Shenzhen BALUN Technology Co., Ltd.	Yanluo-CE	-	-	-	-	-	C-20221	2028/12/21	Building 2, Intelligent Connected Vehicle Industrial Park, No. 55, Xiangshan Road, Luotian Community, Yanluo Sub-district, Bao'an District, Shenzhen, GuangDong Province, P. R. China

R : 1 GHz以下放射エミッション測定設備

T : 有線ネットワークポート伝導エミッション測定設備

C : AC電源ポート伝導エミッション測定設備

G : 1 GHz超放射エミッション測定設備

筆をおくまえに

この原稿を書いているのは2026年1月となりますが、2025年11月、12月はインフルエンザが猛威を奮っていました。子供の通う学校で学級閉鎖がありましたし、毎年何かしら生活に影響が出ます。

インフルエンザが流行しなかった事は、いまだかつてあるのだろうかと思ったのですが、そういえばコロナ禍の時にインフルエンザの話があまり聞こえてこなかったような？と思い出し、詳細を調べてみました。

新聞のオンライン版を確認したところ、2020～2021年はインフルエンザが流行しなかったとあり、2021年3月の記事を以下に要約します。

「インフル患者が少なかった理由について、『今年はライバルのコロナが強すぎた』とのこと。あるウイルスに感染していると、他の似たタイプのウイルスには同時に感染しにくくなる。たとえば、インフルが流行すると、RSウイルス感染症の流行がおさまるという現象が世界的に起きている。こうした「ウイルス干渉」が起きていたのではないかと。新型コロナ

もインフルも、鼻やのどから侵入するという似た性質がある。これまでの冬は、インフルにはライバルはいなかった。だが、この冬は新型コロナという強力なライバルがいたために、インフルの感染が広がる余地が少ない状態になっていたとみられるという」

これを読んで思ったことは「インフルエンザが流行しないことはあり得るが、その場合、他のウイルスが猛威を奮っているのか・・・感染症そのものはなくなることはないのか・・・」でした。その流れで感染症と人との長い歴史や免疫力について調べたりして、学ぶことが多かったです。

なくならないのであれば、既に誰もがわかっている話ですが、まず「かからない」、そしてもし罹患したら「うつさない」を実行し、うがい手洗いは欠かさず行い、免疫力を高めるような生活を心がけ（なかなか難しいですが）、これからも自分なりに感染予防に努めていこうと改めて思ったのでした。

(N.H.)

無断複製・転載を禁ず



VCCI だより No.160 (2026.4)
非売品

発行 2026年3月20日
編集発行 一般財団法人 VCCI協会
〒106-0041 東京都港区麻布台2-3-5
ノアビル7階
TEL 03-5575-3138 FAX 03-5575-3137
<https://www.vcci.jp/>